令和７年度芙蓉保育園自己評価

保育所保育指針において､保育士及び保育所の自己評価並びにその公表が努力義務とされています。
このことを踏まえ、芙蓉保育園は保育の質の向上を図る為に、保育士の自己評価を年度末に年一回行っています。この結果を踏まえ、今後もより良い保育を提供できるように努力していきます。

◎　教育及び保育の配慮

・子どもの発達段階を考慮し、年齢に合わせて援助するように意識して保育してきた。
丁寧に関わり、言葉のかけ方は研修で学んだことを意識してきた。
・自我が芽生え思いを主張したり、トラブルがあった時は子どもの思いに寄り添う言葉かけをしてきた。
・子ども目線を意識しながらコミュニケーションを図り、愛着関係を築くことができた。

◎　環境を通して行う保育

・子どもたちの遊びの様子を見ながら環境設定を考えてきた。今後も発達に合わせて落ち着いて遊べる環境作りをしていきたい。
・製作活動では、のびのびと取り組めるようにし、いろいろな素材に親しみながら表現する楽しさを味わえるようにした。
・子ども達それぞれにとってどうなのかを考え、できるようになったこと、興味を持っていることを大切にしながら保育してきた。

◎　職員の資質向上

・園内研修でマニュアルの見直しをした。
外部研修からの情報をさらに取り入れて、その知識を保育に活かしていきたい。
・研修で学んだことを積極的に日常に取り入れることで、子どもを尊重しながら保育できた。

◎ 保護者に対する支援

・送迎時に保護者が子育ての悩みや心配事を安心して話せるような雰囲気作りを心がけた。
・外部機関と連携することが多かったが、その都度援助や関わり方を学び、保護者にアドバイスすることができた。
・子どもの成長過程で大切にしたいことと、保護者が求めることの内容についてより良い方向にいくための、共通理解の難しさを感じた。